

### 1063 The case of echo-guided EVT for distal posterior tibial artery

症例は 80 台男性。右第 1 趾の潰瘍を主訴に 2019 年 3 月に他院より紹介となった。SPP 検査で、dorsal が 27mmHg、planter が 31mmHg と低下しており、下肢動脈エコー検査で、後脛骨動脈の入口部の狭窄と前脛骨動脈閉塞を認めた。重症下肢虚血の診断で、EVT を施行した。同側順行性に穿刺を行い、destination を挿入した。造影を施行すると、前脛骨動脈の閉塞、後脛骨動脈入口部の狭窄、外側足底動脈の閉塞を認めた。後脛骨動脈の狭窄には容易にシュバリエフロッピーワイヤーが通過できたが、外側足底動脈へのワイヤー通過はできなかったため、前脛骨動脈閉塞に対してワイヤー通過を試みた。しかしながら、途中で subintimal に迷入し、さらに、distal puncture できなかったため、再度外側足底動脈への治療を行う方針とした。アンギオガイドからエコーガイドに治療方針を変更し、また、ワイヤーも Astato9-12 から VASSLLO tapered 40 にステップアップする事で、病変通過に成功した。傷への direct flow を得たため、治療を終了した。術後、planter の SPP は 80mmHg まで改善し、創部治癒をえる事が出来た。エコーガイドでの足関節以下での治療が有効であったため、ここに報告する。